



JICA 筑波 絆で結ぶ国際協力 —世界と TSUKUBA—



日本の経験を世界に ～帰国研修員の活躍～

●帰国研修員ネットワークの形成

中南米地域では都市部と農村部の経済的格差が一般的に大きく、また、農村部で農業生産が向上しているにもかかわらず、人々の生活が必ずしも改善されていないという課題があります。このような状況に対し、JICAは日本で戦後導入された生活改善普及事業や生活改良普及員の活動・成果等の経験を紹介し、各国の農村地域での生活改善運動を促す研修を10年以上に亘り実施しています。中米カリブ地域では2006年から帰国研修員ネットワークが形成され、様々な生活改善活動が展開されています。



(ロゴも自分達で考えました: 左から、ネットワークロゴ、ドミニカ共和国ロゴ、エルサルバドル国ロゴ)

◆エルサルバドルの市長(帰国研修員)のマインドも変えた日本の研修!



(市の取組みを熱く語るカルロス・ディアス市長)

エルサルバドルのモラサン県グアロコクティ市は、東部の山岳地域に位置し、同国の中でも貧しい地域の一つですが、同市のカルロス・ディアス市長は、2013年にこの研修に参加しました。同氏は住民の主体性を重んじる生活改善の考え方に賛同し、帰国後すぐに市役所スタッフを生活改良普及員として任命し、住民の声を聴く姿勢を徹底させ、「家族による家族のための計画」「お金がなくても資源を活用してできる改善」を実践し、住民中心の生活改善活動を展開中です。活動内容は住居改善、栄養改善のための家庭菜園や魚の養殖など。市民からとても慕われており、2015年の市長選で再選されました。

このような帰国研修員の活躍により、これまで住民への資金的支援のみを行ってきた同国の社会開発投資基金(FISDL)は生活改善アプローチを基礎とする地方自治体能力強化プロジェクトを開始し、対象15市に生活改良普及員を配置し成果を挙げています。グアロコクティ市も対象市の一つで、カルロス市長は重要人物の一人です。

また、他の中南米各国においても、生活改善アプローチが農村開発政策や計画、プロジェクト等に反映されています。コスタリカでは国家開発戦略に生活改善アプローチが記載され、農牧省(MAG)で生活改善実証プロジェクトが9地域で実施されており、ドミニカ共和国農地改革庁(IAD)には社会開発局内に生活改善課が設置されています。

◆恥ずかしくて人前で話せなかったのに・・・!?

エルサルバドルで生活改善活動に参加している農村女性は、「最初は恥ずかしくて人前で話すことができなかったの。でも、今は集まりが楽しくて、自分達の活動について皆の前で話すことができるし、それが楽しい。」と語る。

さらに、「最初は夫がこわくて堂々と話すことができなかった。台所の隅に隠れていたけど・・・」と一人が話し始めると、他の女性が「今は旦那さんの方が貴方を怖がっているんじゃない?」と、冗談を言い合って大爆笑となりました。



(はきはきと人前で話す女性達)